



けい 刑 と せん 徒 塚

八九年（後漢・永元元年）

木 雜

金 石 書 画 拾 遺 (21)

刑 徒 塚

木 雜 室

滋

清末の金石家・端方が百余件蔵した
刑徒塚の一つ。その名称が示すように、
陵墓建造に動員されて没した人の簡便
な墓誌である。石ではなく、「塚（煉
瓦）」であり、銘文は土が乾燥する前
の軟らかい時期に木が金属でやや草卒
に刻されたものである。清末に河南省
の洛陽から数多く出土した。近年も、
永元から延光の紀年のあるこの種の塚
が多く発見されている。その草卒での
びやかな八分体の隸書は、石刻の漢碑
に相通じるものがある。一行目の「完」
字の右横へ長く押し出した筆画などは、
同年代の四川省の神道闕と同じである。
他の塚には縦画を下方へ長く伸ばした
ものもある。



書道藝術院 創立発起人 (18)

川 崎 白 雲

(旧号・梅村)

父・梅村 1909(明治42)年～2004
(平成16)年。高知県土佐郡鏡村(現高知市)
生まれ。本名繁吾郎

高知師範に在籍中、川谷横雲先生の指導を
受け貫名菘翁研究に心酔し、その書を基盤と
した。

昭和21年、母校高知師範に着任、菘翁の書
法研究に没頭。

昭和22年、書道藝術院展に参加、審査員と
なる。
昭和26年、大阪に出て梅村社を興し書活動
に専念。この時期、現書道藝術院理事長・恩
地春洋先生他と行動を共にすることになる。
また毎日書道展審査員や書の海外交流の草分け
として活躍。国際的にも通じる書を「新書
芸」と名付けた。自由で独創的な書を発表。

昭和38年、イーデス・ハンソンさんと訪米。
各地で書展、揮毫会を開く。帰国後、その記

録「ブラシの詩人」出版。

昭和46年、中央書壇の活動から退いて、臨
書と独自の書境開拓に専念。以降「白雲」と
号する。

平成元年、鏡村名誉村民となり、創作・臨
書作品約二千点を鏡村に寄贈。

平成7年、鏡村文化ステーションRIOが
完成して三階「ギャラリー白雲」に作品を常
設展示。またギャラリー中心の書活動に専念
のため数年帰村。その後平成11年、滋賀県大
津市に移住。

平成16年、11月14日・大津市にて永眠。享
年九十六歳
(横山小園記)

〈後記〉
横山小園(旧姓川崎)白雲先生長女として
書道藝術院漢字部で活躍した。
(春洋)



平成9年「88歳」作

高知市教育委員会鏡公民館「ギャラリー白雲」蔵

本紙 135×35

書のひろば

理事長 恩地春洋

秋季展も人も生きもの
—息づきながら60年—

財団法人書道藝術院は本年創立60周年を迎えた。2月の記念展を始めとして記念事業が計画され、現在も進行中です。

昭和23年、本院創立以来「前衛の芸術院」として脚光を浴び、ニューヨーク近代美術館に展示され、書が世界に紹介された初期の時代、分裂の試練を重ねつつ革新団体、総合団体として機構を模索した四谷事務所時代。

東神田の現事務所に移転してより、法人化運動を起こし、地方組織の充実と整備につとめた時代。

作家集団を目指し、秋季展に推薦作家制度を設けたり、院外からの力を借りて中堅作家の発掘に努力した時代。待望の財団法人として認可され、平成の書道藝術院として、新しい課題に挑戦する時代に入りました。

それぞれの時代に、欠点を補いつつ会員活動を活性化し、絶えず書の革新に努力した先人の労苦に感謝したいと思います。略史紹介しました。

創立60周年記念ウィーン展 開会式の挨拶

恩地理事長あいさつ（会場にて）

夏の講習会は十和田 —爽涼の奥入瀬溪流ホテルで—

このたび、私たちの同志、谷脇梅翠さんをリーダーとする日本とオーストリア親善の文化交流が20数年、ワークショップと書展がはじまって10周年を迎えました。

本年、書道藝術院が創立60周年を迎えるに当たって谷脇さんの熱意に感動し、支援の意味を込めてウィーン展を行いました。

広報文化センターの方々のご尽力によつてヘルナルス市民大学より会場を提供していただき、書道藝術院60周年記念展とワーカーショップを開催できることになりました。

今回展に際し、梅津至大使、妹尾広報文化センター所長さんはじめ、大使館センターの方々、ウイーン市17区長さん、ヘルナルス大学校長さんをはじめ、関係の方々のご支援、ご高配に心から御礼を申しあげます。

このささやかな市民レベルの交流が継続され、日本とオーストリア国民の相互理解と両国の親善が更に発展することを願つて、ご挨拶といたします。

秋季展菊花賞決まる

本年度秋季展は、審査会員候補より公募された389点（242名）について、8月17日、審査会が行なわれ、慎重審査の結果、入選は約24パーセントの61名、秋季展菊花賞は左記11名の方々に決定した。

本年の秋季展は、役員選抜作品と、審査会員候補による公募入選作品を展示了。

尚、60回記念役員作品巡回展・東京総局展も併催されます。

ご高覧、ご指導をお願い申し上げます。

入選

山崎喜山ほか

秋季展菊花賞（11）

講演 「棟方志功を語る」元東奥日報社長佐々木高雄先生による志功のエピソードを紹介して人間志功を語った。映写機で揮毫を映写しながら大きなスクリーンで説明も同時、機器を取り入れた指導法が学習効果をあげた。



夏の講習会は十和田 —爽涼の奥入瀬溪流ホテルで—

恒例の夏の単位認定講習会は北日本支局主管、8月18日、19日の二日間、緑の中の奥入瀬溪流ホテルで催された。八百畳の主会場と天然のクーラーの中で快調に進行した。

院史 種谷扇舟先生の平成以後の作品を中心に時代を振り返る。秋季展作品の紹介。いずれもスライド使用。

原拓書道史 扇舟先生コレクションによる原拓法帖を拝見できる喜び貴重。刻字 一字書のスジ彫り、何時も思うが、講師、助講師の先生に感謝。

現代詩文書 古典の書風を理解しての漢字かな交じり書の創作への取り組み方を指導。

かな 条幅に俳句を書く基本的な用筆と構成を参考手本を中心に取り組む。

漢字 各種臨本を紹介し、基本的な羲之の用筆を映像で着実に伝えた。

前衛書 古典を持たない部だけにむずかしい。が感性を引き出すことは十分できた。

講演 「棟方志功を語る」元東奥日報社長佐々木高雄先生による志功のエピソードを紹介して人間志功を語った。映写機で揮毫を映写しながら大きなスクリーンで説明も同時、機器を取り入れた指導法が学習効果をあげた。

漢字 (六)

上妻華竹



上妻華竹書

たように思います。まず言葉づかいとして行儀。

今回で最後の原稿となりました。今少し気になっている事を書いてみます。私も30年位、子供達に習字を教えています。子供は今も昔も例外なく、可愛くて純粹ですが、最近少し変わってきた

するような風潮を感じますが、そんな中にも人生の先輩である大人が凜として教えるべきものがあると思います。学校の教育も受験のための学習が強化され、情操的な部分が欠如している

ような気がします。書写の授業も他の科目に変わることもあるとも聞きます。小学校でも、英語の授業を取り入れるとか。確かに国際社会に対応するのに英語教育も必要だと思いますが、その前に日本の文化を知り、自國に誇りを持てる子供が育つて欲しい。私も書道教室で日本の伝統文化の一端を担い、子供達に何かを伝えられればいいと思ってい

前衛書 (六)

真下京子



真下京子書

たが、書道芸術院という団体の中で研究会や講演会への参加、本展や秋期展に出品する中で学ぶことは多い。改めて同志がいて励ましてもらえることをうれしく思う。

50年近く前衛書と向き合っている私が、ソウル世界書藝祝祭に参加し、改めて自分の足跡をたどってみた。時にはスランプに陥り書きやめようかと迷ったこともあっ

たが、心がけていること、それは固定観念を振り払うことである。感動し、思索し、対峙し冒險へ、時代を先取りしながら精神性を打ち込んで作品制作をしていきたい。

2006年12月世界書藝祝祭の総監督・孫炳哲氏が館長を務める物波空間画廊で「韓中日現代書二十人展」が開かれた。私は出品の依頼受け、再び訪韓した。韓国や中国の作品の中には、色彩も使用されカラフルであったが、違和感なく国境を越え、三国の作品が響きあっていた。今まさにソウルにおいて視覚芸術の書が市民権を得た感じがした。スキルマーケットで取り込み、Eメールで送信すれば、即座に作品が世界中に届く時代。手を取り合い、世界共通の視覚芸術「書」を後世に残す努力をすること、これこそ「二十一世紀の課題だと思う。

「如」

第7回
竹扇会選抜書道展
2004年1月
東京銀座田中ホールにて

21世紀の書

—私の主張—

「不死鳥」



第59回書道芸術院展出品作
2006年 韓中日現代書20人展出品作

〔注〕

漢字研究部競書作品は、

左の法帖の中から

何文字臨書してもよい。

(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる

署名、もしくは
○○臨

(押印のみも可)

〈解説〉
左記の掲載図版は、全面に裏側からへらのようなもので空欄を引いた、いわゆる縦簾紙であり、書写にあたっての配置に大きな助けを成したと思われる。

奈良時代の宮廷に王羲之書法が盛行したことを物語る貴重な書道史の資料である。

(編集部)

樂生之所屑彊燕而廢道又非樂生之所求
也不屑苟得則心無近事不求小成斯意兼
天下者也則舉齊之事所以運其機而動
海也夫討齊以明燕之主義此兵不興於為
利矣圍城而害不加於百姓此仁心著於遐

樂生之所屑。彊燕而廢道。又非樂生之所求也。不屑苟得。則心無近事。不求小成。斯意兼天下者也。則舉齊之事。所以運其機而動海也。夫討齊以明燕之主義。此兵不興於為利矣。圍城而害不加於百姓。此仁心著於遐



〈解説〉

本阿弥切の書風は、寸松庵色紙、閑戸本古今集などと同系統だが、より抑揚、浮沈が激しく小粒の文字を変転自在にリズミカルに書いている。特に、行尾の字間を詰めた紧迫感は圧巻である。書式も変化に富み、一首二行書きの外、一首一行書きや散らし書きなど他に類を見ない。道風筆と伝わるが、料紙、書風から十二世紀前半の書写とされている。

(編集部)

注：かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

習い方解説 (六)

辻元大雲

清秋竹露深

今回で最終となりました。前回に続き五文字を草書表現。やや硬めの白狸筆を使用してみました。古典を系統的に幅広く学習することも、一点集中的に奥深く極めることもどちらも意義ありますが、いずれ両方とも身につけることになります。その上で自らの表現、創作へと結びつけていきます。

展覧会出品作品はほとんど創作で臨む場合が多いと思いますが、古典学習で培った力を総合して自らの表現となります。これがなかなか難しい。つい師の手本、または師風に追随する作品を追うことが多いようです。作品制作経験の少ない段階ではある程度仕方ありませんが、そのときでも自分の学習した経験、技術を少しでも生かして制作に臨んでください。

清秋竹露深 よみ（清秋竹露深し）

書体＝自由



漢字規定秀級以下【十月二十日締めきり】用紙半紙普通判

小伏小扇選書



習い方解説 (六)

小伏 小扇

雅人深致（雅人の深致）
高尚な人の奥深い趣
〔謝安〕

〔謝安〕

語句の意に適うように思い、雁塔聖教序を参考にしました。線は細く、筆圧が紙背に通るほど、筆先を立てて強く書きます。

「雅」隹の横画の間隔を等しくす

「人」波法は三折法をとり、末端で筆を止め、勢よく峰を出
す
「深」へんよりつくりに重点を置
いて書く
「致」へんとつくりのバランスをとり、終筆は三折法で書く

雅人深致 よみ（雅人の深致）

書体=楷書

かな規定 初段以上 【十月二十日締め切り】 用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

習い方解説 (六)

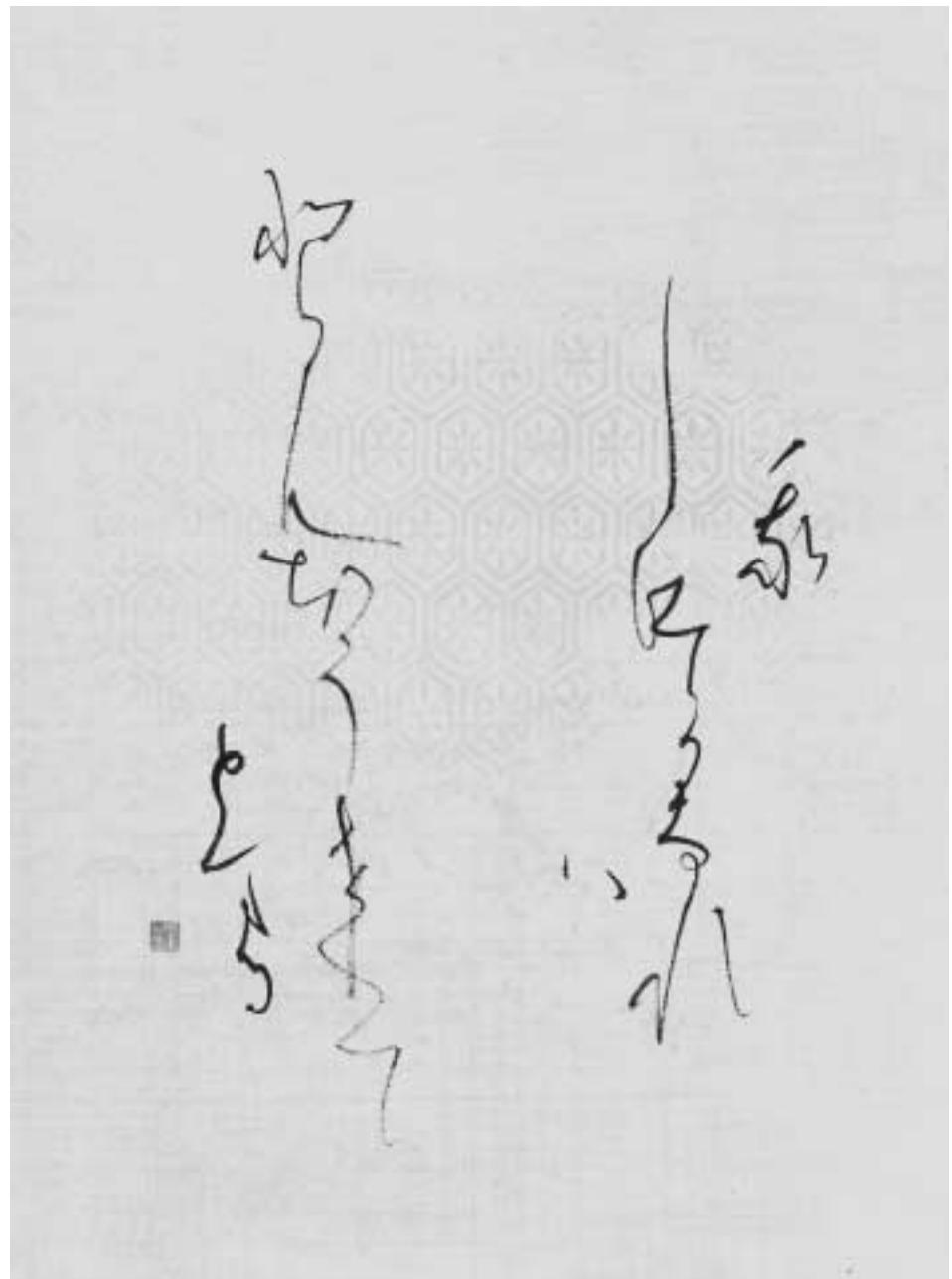
下谷洋子
我静かなれば蜻蛉来てとまる
(高浜虚子)

トンボと言うと童謡を思い出しますが、今では夕焼に赤トンボなど見る機会も場所もなくなりました。

かなにもれず線質について評されます。線は書く人の心の動きと関係が深く、線質は性格のように一人一人味が異なります。もちろん筆によつても変わりますが。審査をしていて気づくことです
が、構成や字形はかなり整つても、ただダラダラと勢いのない線や、穂先だけで書いたような抑揚のない線が多く目立ちます。姿形は慣れればつかますが、生きとした線は、そう簡単には手に入りません。筆先の走る勢いと筆圧の変化を意識して強弱のきい自分のリズムを早くつかみ、心の波動が伝わってくるような作品づくりを目指して下さい。

よみ方 我しづ(徒)か(可)な(奈)れば(八)と(登)んぼ(本)う来てとま(万)る

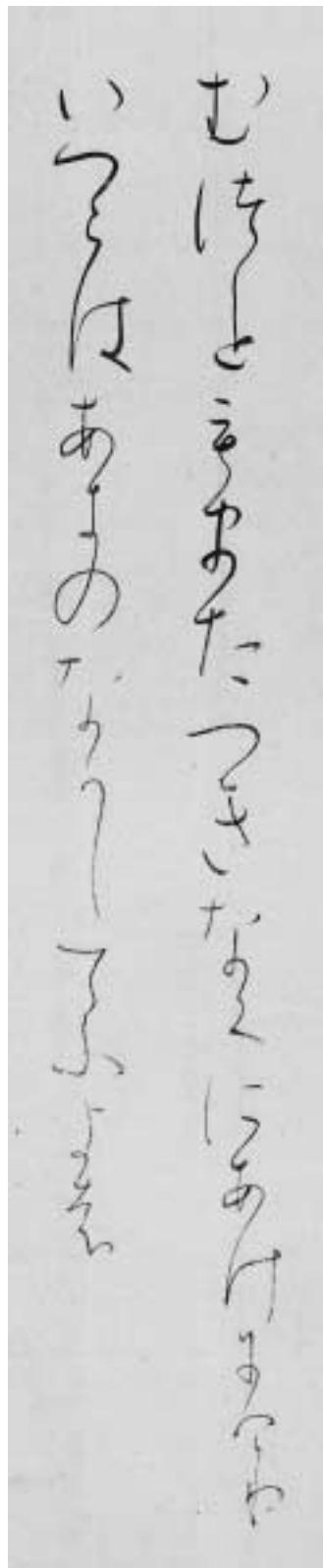
創作



かな規定 秀級以下 【十月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて 32センチ・よこ 12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小 93%)



よみ方 むつ(徒)ごとも(毛)まだつきなく(久)にあけに(尔)け(介)り(利)
いづらはあき(支)のなが(可)してふよは(者)

かな条幅規定【十月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

天海矩子選書

習い方解説(六)

天海矩子

十六夜の雲吹去りぬ秋の風

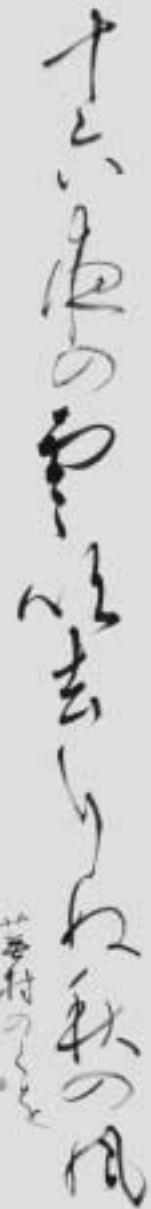
(与謝蕪村)

俳句の一行書きで変体がなを使わず、連綿は少なくして句意を生かしました。漢字は行書あるいは草書にするかで雰囲気が変ります。高段の方は違う構成も試みましょう。

*たて形式に限る

よみ方 十六夜の雲吹去りぬ秋の風 蕪村のく(久)を

創作



十六夜の雲吹去りぬ秋の風

蕪村のく(久)を

漢字条幅規定 初段以上 【十月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

習い方解説 (六)

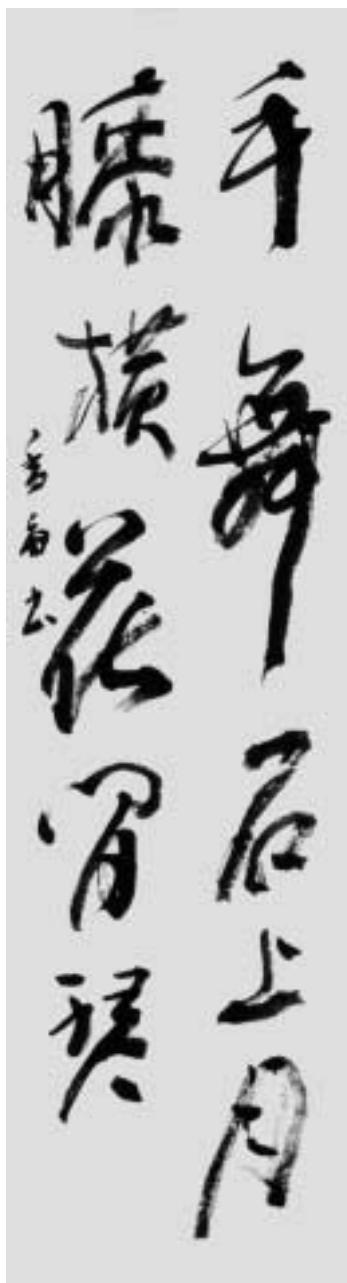
種谷萬城



浮雲游子意 落日故人情 挥自茲去
（浮雲游子の意 落日故人の情 手を揮て茲自り去れば蕭班として班馬鳴く）

書体：自由

李白の五言律詩「送友人」の後半四句を探りました。漢簡を参考にし、隸書で書いてみました。紙が誕生する前の書写材料は、木や竹をさいて作った簡牘です。戦国時代より三国時代に至る長い間の簡牘が遺されています。漢代の木竹簡は隸書の学習に益するものが多く見られます。表情豊かで筆勢のよい隸書は魅力的です。



漢字条幅規定 秀級以下 【十月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

萩原香扇選書

習い方解説 (六)

萩原香扇

詩の内容を表現するという事をテーマとして書いてきました。詩をさがし書体、筆の大きさとあれこれ組み立てを考える。何枚も書いていくうちにいろいろ変化し作品が見えてくる。この試行錯誤が作品を作る喜びになるのだと思います。

書体：自由

手舞石上月膝横花間琴
(手は舞う石上の月膝には横たう花間の琴)

習い方解説 (六)

川島舟錦

ホイリゲといって新しいブドウ酒を
飲ませると、もうがワインの森林の
ふわとにあります。ここでは町の
レストランと違ってサレ無礼講に
なつこても許されます。書

広い広い見わたす限りブドウ園、の中に、手づくりの長いテーブルとイスをたくさん置いてある風景を想像してください。ずっとずっとむこうには、赤い屋根の家々が見え、まるで絵画の中にいるような錯覚さえおぼえます。夕暮れ時に皆で集まり、手料理と、とれたてのブドウ酒をいただきながら会話を楽しんだり歌をうたったりして夜はふけていく……という情景を思い浮かべるだけでワクワクします。

『ワインの風』も今回が最後です。思いを馳せ楽しみながら、リズムにのって書いてください。

※落款を入れ忘れないようにしてください。
さい。(落款は自分の名前を入れてください。)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

各部総評
木一プロ作品
No.554

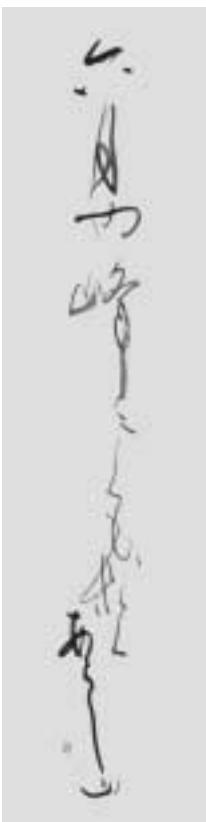


漢字部 師範 西館 四草
濃墨、藏峰をよく生かして、沈着冷静にまとめた。一字一字をバランスよく豊かな作となつた。

◎漢字部総評 参考手本がのびやかで動きがあったので、大胆な動きの作が多かった。動き過ぎて乱暴にならぬ注意も必要。（春洋評）

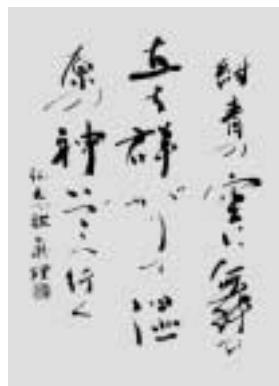
漢字条幅部 師範 阿部 恵泉
彈力ある柔毫筆をうまくコントロールし、落ち書きある行書作。潤渴の変化もバランスよく調和。

◎漢字条幅部総評 条幅部は上下級共書体自由でありながら参考例に頼る作多し。もっと多彩な取り組みを期待したい。（大雲評）



かな条幅部 二段 千葉 華紅
優しい墨色、たおやかな線は心に染み入ります。どこにも何等無理のない作品の魅力は絶大です。

◎かな条幅部総評 漢字の崩しに誤字が目立ったので確認すること。落款の書き方、印の大きさに研究と配慮を望みます。（明子評）



現代詩文書部 特選 吉田 真理
多字数作品ながら鍛えられた重厚でリズムカルな線は作者の詩情に対する想いが伝わります。

◎現代詩文書部総評 字形の幼稚さ、線質の甘さの克服に古典（金槐和歌集）の臨書を。（堂光評）

前衛書部 特選 堀口ほづみ
筆の開閉見事線質強さ力感溢れまた白黒のバランスよく爽快な作である。

◎前衛書部総評 作品の向上、作者の熱意伝わり今後が楽しみである。（如水評）

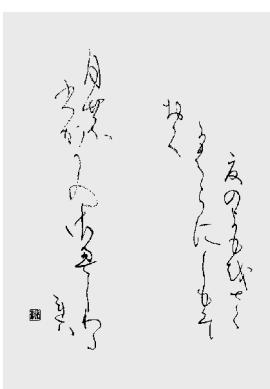


ペン字部 師範 飯田 恵萩
漢字、ひらかな、カタカナの特長を握し、強く伸びやかな線で隙のない見事な作品です。

◎ペン字部総評 漢字と比べて、かなの形に難点のある作品が目立ちます。古筆から美しい形をよく習うことが大切です。（小扇評）

かな部 師範 藤木 素影
筆の弾力を利かせた強い線でりズムもよく、墨の演出も見事な安定した作品です。深さが際立つ。

◎かな部総評 参考手本と同様に書いたものは誤字もなく秀作が多かつたが、少々寂しい感じも。恐れずに創作に挑戦を！（洋子評）



今月の 特別優秀作品研究品 （特選）

篆刻
墨宣
中山無硯

少者懷之

◆明るくまとめたのはよいが「少者」やや散漫で緊張感が足りない。
線質が軽い?「懷之」には藏峰の線質も見受けられるが。(春洋評)
◆円形に四文字の布字が美しい。全体として牙元に刀去で表ひます。

左方がやや重く、バランスを欠いたか。落款もつと厳しい表現を。

(大雲評)

◆線の表現かゆつたりとしていて全体の綻まりが落ちついている、その反面四字の構成の中に筆と同じように続く刃の切れ味を出して欲しい。

(大雲評)
ている。そ
して欲し
(倫子評)

◆押捺の食込みの用紙を使われると、格段に見応えがあったと惜しまれます。明るく、立体感を感じさせられる構成は好ましい。

中山無硯刻



總評

アです。
今日は76点（漢20、か8、現28、
前19、篆1）の応募がありました。
出品者に常連の方が多く見られます。
その中で毎月の応募作品を通して、
新しい作風に挑む方の姿勢に敬意を
表します。一作一面貌、作っては壊
しの繰り返し、現代書の開拓者達の
精神に敬服します。（萬城）

內城

前	前	前	現	現	現	か	漢	漢	漢
容	蓮	大	青	千	大	志	玄	墨	竜
洲	紅	拙	蓮	葉	雲	引	穹	宣	泉
伊	淺	大	伊	渡	小	鈴	千	大	小
藤	野	庭	藤	辺	見	木	葉	川	林
聰	彩	幸	有	秋	碧	朝	紅	代	洋
苑	紅	石	津	湖	洋	夫	雪	香	龍

特選候補者

◆繊細な線で大きく動き、心のこもつた一行が美しい。墨量のコントロールが巧みで、読み易いのが好ましく、句意とマッチした秀作です。（明子評）◆濃い墨の変化を細い線とかすれとでバランスを取りリズム感を与えてくれる。「百合ひらく」の所の様に「思ふ子」の子の横画を短くしたら如何？（論子評）

◆縦一行、横画を横に張り過ぎて散漫になつていませんか。最後の五字はしまつたが。どうも線で遊び過ぎているようで気になるけど如何？（春洋評）◆細線のリズムと明るさが爽やかな気分を醸し出している。上半やや平板な感あり、下部の冴えが見事。更に研鑽努力を重ねてほしい。（大雲評）

何處子種類也至

熊谷青山書

前衛書 (四谷)
角田 悠香

「夏模様」



◆中心に表現されている細い線、目につく所の切れ味が足りない。全体の構成は白い所が上手に生かされている。書かない所の大切さ自覚して。(倫子評)

かな
道 山 藤 明 美

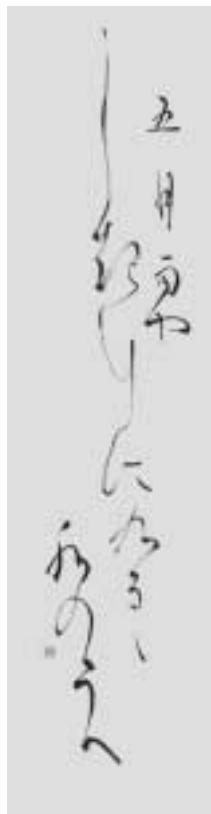
「五月雨や」

◆書き出しやや押えた表現から中央部の拡がりが明解です。側筆のスベリと結句の収め方が甘く感じられます。更に線の鍛錬を。(大雲評)

◆明るく、びやかな作品。二行目好調の運筆。特に、墨を含んだ時は線がゆるみ易いので、工夫してみましょう。書き込んで線に磨きを。(春洋評)

◆墨色よく、流れよく上品な作です。更に中央の行に太細がつき、左右の動きが出ると華やかになります。大きめの筆を試されてはいかが?(明子評)

◆ゆったりと流れる様に表現され、かなめしさを感じます。二行目の最初の部分に筆の荒れが見られるのは姿勢によるものか筆の流れか一考を。(倫子評)



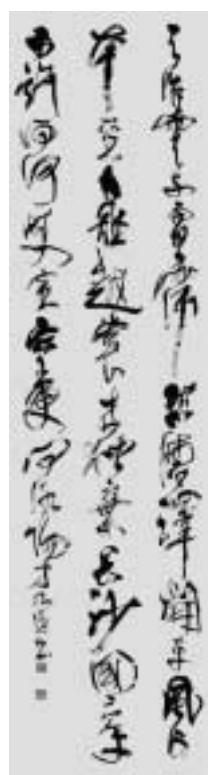
山藤明美書

書香 悠角

漢字
(墨宣) 鎧木梅道

「放後遇思不霑」

鎧木梅道書



◆完璧な計算によって創り出された作品の力強さは限りない。どんな筆を使われたのか興味が湧きます。渴筆線に痛さを感じるのは私だけ?(明子評)

◆墨つぎで全体に変化をつけ心をゆさぶられる思いがする。でもこの詩の意味から感じる長沙の国に居る自分を悲しむ心も筆の動きが欲しい。(倫子評)

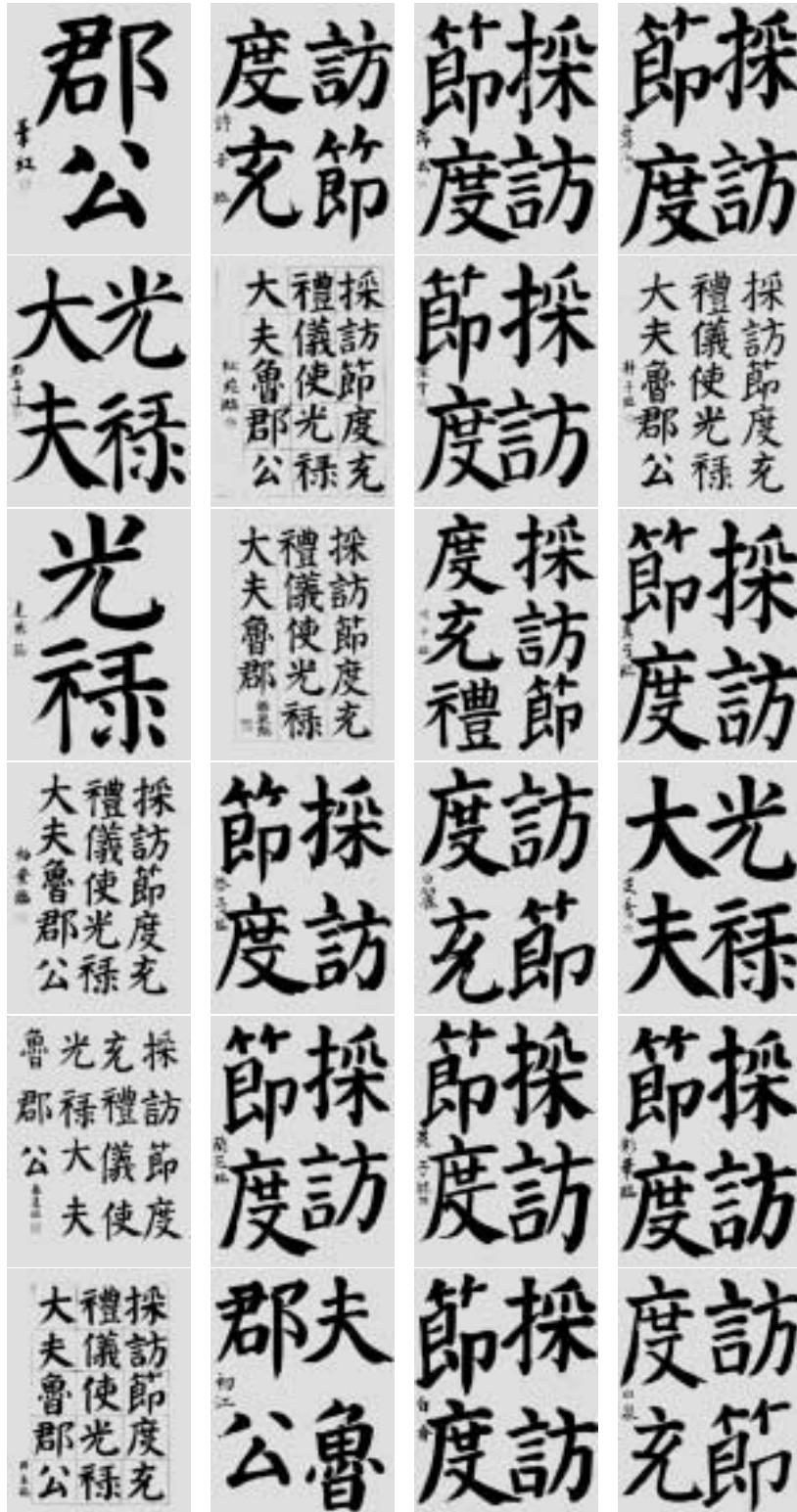
◆鶴毛筆を使用か、やや荒れた渴筆が全体のリズムを醸し出す。鍛達の技は安定し、ゆるぎがない。欲をいえば広がりと余裕ある呼吸か。(大雲評)

◆少々荒れ気味ながらリズムに乗って情懷を筆に托す。漢詩も読ませて詩情を味わうものなら、表現にも起承転結は必要ないものだろうか?(春洋評)

◆構成は成功、下部の線質には冴える中央の細線が弱い。線や面の研究、特に線の色々な表情の研究、強い線の研究を。視覚芸術なのだから。(春洋評)

◆思い切った中央部の余白が上下の線により冴える。下部の緊張感が印象的その反面、中央の細線やや甘く、惜しまれるが明快な作です。(大雲評)

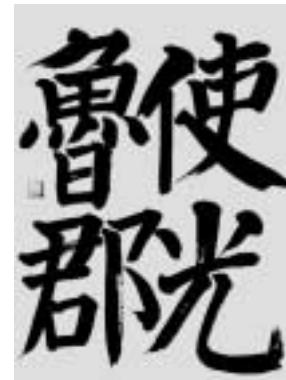
◆白が生きている、が第一印象。上半分の細かく点在する飛沫が涼しさを増していく効果的です。やや、迫力に欠けるのは食込み不足?(明子評)



漢字研究部
(顏氏家廟碑)

選評 名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



戸野翠江

◎漢字研究部總評

漢字研究部 特選 戸野 翠江
原帖の特長をよくとらえた堂々たる臨書である。顔法の特徴は見た目の形によく現れているが、その本質である用筆・運筆にまで躊躇込んで表現することは難しい。この作品は顔法の内面に鋭く迫った点を高く評価したい。

勢、横画は細め、縦画は太め、起筆と終筆の形状等にあるが、ただ太く書けばよいのではなく、筆の弾力を生かし、直筆で圧をかけることが重要である。応募作品の中にはあまり起筆や側筆での太さ表現となっているものもあった。字形についても多寶塔碑や建中帖との区別がつくよう気を配る必要もある。しかし今回の審査では、一見して特徴を踏まえかた作品が多く、好感が持てたのが幸いである。

祥春柏光郁華

初蘭啓皓松詩

白英白悅深瑞

白彩芝真靜孫

泉蓮葉鳳子紅

江花子 泉苑音

香子麗子雪岳

泉華香弓子功



信 恰 信
子 扇 子

優深
え子雪

五百子 弘峰 彩

清佑春
子子華

喜正硯道書五葉
染華水華泉秀作
鈴知柴木松岡都丸みどり
木念原井部
史律翠輝知照芳子子子子

月硯秀こ椿紅石卯A玉香A卯竹秀蘭道椿玉前遊卯京澄蓮
華水明だ翠瑤習月I葉月I月扇水鼎 翠葉橋雲月橋春紅
中宮岩大平須松天伊遠鈴藤粟木門川鈴星阿碓西須吉宇千
塩澤崎石井田丸野藤山村原下脇崎木 部井澤田田葉
あ 志 た 五 川
朱草洋星采香愛い寿希香昌信怡信優え深百 彩清佑春華
華秋子祥子舟石子子生子子屬子子雪子弘峰子紅

正大姫
石華
艸玄祥舟華
月雲華
伊磯戻澤
内藤貝澤
中熊野澤
谷古塘英子
雅子清輝王

如玉五如秀英福詢富澄玉N山明正幕艸叔澄椿治小硯藤
大石高五
月松葉月水峰山扁扇春松H王漢華張玄春翠田汀水拙習崎葉
成小森富北佐岡工小宮塙坂前吉星高龜芦安嵩文伊八三荒内北戸
澤川田岡爪藤本藤野内澤本島田野橋井澤藤本野藤重嶋木村村来
樺
八寺登美千美櫻
裕彩睦容重桂真香玉幸美眞代鶴子佐賢紫澄代麻和紫溪敏孫皓欣益
裕子季子桂峰蘭華平紅見紫風嗣皇子泉邦見皇子功皇子江

硯水佐々木吉田中入選

湘前竜紅霜卯樹高百竜大調玄太こ東群椿大行も大春己彩佑華書塙N霜筑秀大秀英生春長大椿玉高椿蓮卯
南橋泉瑠月月原崎谷泉雲布象阪だ向馬翠阪徳く雲光未希祥泉和H月桜水雲水峰大汀月阪翠葉翠紅月
佐八泉鈴湯新庄青本後朝小木岸五島金百貝浅西森蕪中岸田山伊若伊藤大富河高田君山香杉小竹仙酒橋遊津
中藤木水鈴木本谷司木郷藤倉林下本十山光木賀見川下木山田中崎藤菜藤原西澤合橋中島口浦野森田井本佐田
江美嵐由喜野嘉松代空紀藤祥悦尚東梢松則矩良節一惠和初蒼文菊萩弓孝恵日紅幸
吉詠順龍智桂嵐咏理谷良爽雅都萩住芝松代空紀藤祥悦尚東梢松則矩良節一惠和初蒼文菊萩弓孝恵日紅幸
子子学坐且日尊神子子華善禾善芝子子翠江子子佐子羊子敬江子子染熱江桔半子子和華子
子子学坐且日尊神子子華善禾善芝子子翠江子子佐子羊子敬江子子染熱江桔半子子和華子

春竹昌翠秀東已東
汀蘆吟水光未小

八北調高遊澄調潮青紅清梨翠正泉前泉前椿東洞千昌皓洞竜石千泉明大正大調誠英生英千生大藤英三
街陸在阪雲春布音峰蘿雪哈華会橋會橋翠工畫葉蘿布蘿畫泉望字会津阪華阪布和條大條葉大阪
峰匯

沖河佐近花小館佐
岡藤藤里暮野久
佐志間

佐々木義徳高野菊吉茂千岸長宮前植辻石岡砂濱河吉松川森閑北永社後佐金大新入村村田湯浜上片後
西伊藤谷永野沢田田木歳本岸崎沢村坂田川田野田島田矢川田本藤谷杉敷岡谷山田口本川根原野原藤
岡谷藤谷

和星初閑智昭津節子二子子扇香窓子

外生た葉曜葉書葉
222
名氏湯吉大黒松酒花
浅野楓江重井田

飯後吉津渡安吉高濱清永犬今牧斎谷田木水守寺門萬石藤原麻布口山市元
峰岸熊栗川小野春加高横高除小徳山田加瀬川木林穂佐野原山川藤木林上野
吉津渡安吉高濱清永犬今牧斎谷田木水守寺門萬石藤原麻布口山市元
峰岸熊栗川小野春加高横高除小徳山田加瀬川木林穂佐野原山川藤木林上野

か な 研 究 部
(香紙切)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品

千 葩 華 紅

◎かな研究部総評

全体的に丁寧によく書かれた作品が多く見られましたが、あまり小さすぎたり、大きくなり書き過ぎたりせず、程よい伸びやかさで臨書される事を望みます。

かな研究部 特選 千葉 華紅
伸びやかに、大胆に、躍動する線が、紙面を走り
香紙切の自由な表情を見事に表した秀作。ひとえに
日頃の修練に裏付けされた作品と 思います。

書
展

玉松会11人書展

町山美扇

会期＝平成19年7月9日(月)～15日(日)

会場＝ロイヤルサロン

(サッポロ銀座ビル 8F)

楽しみにしておりました玉松会11人展に、お伺いさせていただきました。折りしも、毎日展が開催中でしたので、院の関係者をはじめ、他の会の著名な先生方がお見えになって、会場は賑わっていました。

会場入口に、出品者全員による葉書、



会場風景



出品者全員による貼りまぜの作品

出迎えて下さった方々の心配りが、和やかな雰囲気を醸し出し、所々に飾られた花々が作品を引き立て、調和のある明るい会場風景でした。

今回は、テーマは特に決めず、「平安のみやび」から「現代短歌・俳句」まで巾広く、一人、二点

決めず、「平安のみやび」から「現代短歌・俳句」まで巾広く、一人、二点

短冊等が、七夕の天の川に模した砂子の上に、流れるよう構成された貼りまぜの作品が飾られて、いかにも仮名の展覧会らしい雅びな趣です。また、

軸装、扇面の縦使いの小品等々、素晴らしい作品を楽しく勉強させていただ

きましたこと、感謝いたします。

永井幸子先生の教えを大切にしつつ、各々の書風を深めようとしている姿勢が感じられ、敬意を表しますと共に、来年の展覧会を期待しながら、小雨降る銀座を後にいたしました。

◇10月号の課題
漢字規定（初段以上）
山高水長

予告

漢字規定（秀級以下）
かな規定（初段以上）半紙（料紙可）
風吹けば、いつも靡けど秋くれば
ことに聞ゆる萩の音かな

（和泉式部）
かな規定（秀級以下）料紙可
「あきくればのべにたはるゝをみなへし
いづれのひとかまですくべき」
のうたを全臨または、部分（二字以上
の連綿）を臨書する。

漢字規定（秀級以下）
薄霧の籬の花の朝じめり秋は夕
べと誰かいひけむ（藤原清輔）

漢字条幅規定（初段以上）
青苔地上消残暑
緑樹陰前逐晚涼
(唐・白居易)

漢字条幅規定（秀級以下）

雲高氣靜

ベン字規定

秋の千草というように秋の野にはたくさんの花が咲きます。

皆さんは秋の七草を知っていますか。

これは和歌にもよまれています。

萩の花屋花くす花なでしこの花をみなへしました藤はかまあさがほの花

というのです。

久保田淳「七草の歌」より

10月
20日
締切

表紙写真 「本阿弥切」

特別昇級試験

一、しめきり日 10月20日(土)

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

漢字	一種、二種、三種
漢字条幅	一種、二種
かな条幅	一種、二種、三種
ペン字	一種、二種、三種
かな条幅	かな条幅の三種は、春季募集となります。

二、応募資格

一人で幾つの部にも応募できる。

・第一種

現在級が優級～10級

・第二種

現在級が初段～3級

・第三種

(4～10級の方は受験できない)

・第四種

(優級以下の方は受験できない)

・第五種

新規出品者は、一種の10級で応募する。

三、課題文字と用紙 (創作文字は新旧)

※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、8月号(今月号556)

(号)写真掲載の中から「指定文

字数」を臨書。

漢字部 半紙=たて長に使用
楷臨書 高貞碑 (高貞碑より)

第一種(一枚)

第二種(楷・行計一枚)

第三種(楷・行計二枚)

第四種(楷・行計一枚)

第五種(楷・行計一枚)

第六種(楷・行計一枚)

第七種(楷・行計一枚)

第八種(楷・行計一枚)

第九種(楷・行計一枚)

第十種(楷・行計一枚)

第十一種(楷・行計一枚)

第十二種(楷・行計一枚)

第十三種(楷・行計一枚)

第十四種(楷・行計一枚)

第十五種(楷・行計一枚)

第十六種(楷・行計一枚)

第十七種(楷・行計一枚)

第十八種(楷・行計一枚)

第十九種(楷・行計一枚)

第二十種(楷・行計一枚)

第二十一種(楷・行計一枚)

第二十二種(楷・行計一枚)

第二十三種(楷・行計一枚)

第二十四種(楷・行計一枚)

第二十五種(楷・行計一枚)

第二十六種(楷・行計一枚)

第二十七種(楷・行計一枚)

第二十八種(楷・行計一枚)

第二十九種(楷・行計一枚)

第三十種(楷・行計一枚)

第三十一種(楷・行計一枚)

第三十二種(楷・行計一枚)

第三十三種(楷・行計一枚)

第三十四種(楷・行計一枚)

第三十五種(楷・行計一枚)

第三十六種(楷・行計一枚)

第三十七種(楷・行計一枚)

第三十八種(楷・行計一枚)

第三十九種(楷・行計一枚)

第四十種(楷・行計一枚)

第四十一種(楷・行計一枚)

第四十二種(楷・行計一枚)

第四十三種(楷・行計一枚)

第四十四種(楷・行計一枚)

第四十五種(楷・行計一枚)

第四十六種(楷・行計一枚)

第四十七種(楷・行計一枚)

第四十八種(楷・行計一枚)

第四十九種(楷・行計一枚)

第五十種(楷・行計一枚)

第五十一種(楷・行計一枚)

第五十二種(楷・行計一枚)

第五十三種(楷・行計一枚)

第五十四種(楷・行計一枚)

第五十五種(楷・行計一枚)

第五十六種(楷・行計一枚)

第五十七種(楷・行計一枚)

第五十八種(楷・行計一枚)

第五十九種(楷・行計一枚)

第六十種(楷・行計一枚)

第六十一種(楷・行計一枚)

第六十二種(楷・行計一枚)

第六十三種(楷・行計一枚)

第六十四種(楷・行計一枚)

第六十五種(楷・行計一枚)

第六十六種(楷・行計一枚)

第六十七種(楷・行計一枚)

第六十八種(楷・行計一枚)

第六十九種(楷・行計一枚)

第七十種(楷・行計一枚)

第七十一種(楷・行計一枚)

第七十二種(楷・行計一枚)

第七十三種(楷・行計一枚)

第七十四種(楷・行計一枚)

第七十五種(楷・行計一枚)

第七十六種(楷・行計一枚)

第七十七種(楷・行計一枚)

第七十八種(楷・行計一枚)

第七十九種(楷・行計一枚)

第八十種(楷・行計一枚)

第八十一種(楷・行計一枚)

第八十二種(楷・行計一枚)

第八十三種(楷・行計一枚)

第八十四種(楷・行計一枚)

第八十五種(楷・行計一枚)

第八十六種(楷・行計一枚)

第八十七種(楷・行計一枚)

第八十八種(楷・行計一枚)

第八十九種(楷・行計一枚)

第九十種(楷・行計一枚)

第九十一種(楷・行計一枚)

第九十二種(楷・行計一枚)

第九十三種(楷・行計一枚)

第九十四種(楷・行計一枚)

第九十五種(楷・行計一枚)

第九十六種(楷・行計一枚)

第九十七種(楷・行計一枚)

第九十八種(楷・行計一枚)

第九十九種(楷・行計一枚)

第一百種(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

第一百零一种(楷・行計一枚)

第一百零二种(楷・行計一枚)

第一百零三种(楷・行計一枚)

第一百零四种(楷・行計一枚)

第一百零五种(楷・行計一枚)

第一百零六种(楷・行計一枚)

第一百零七种(楷・行計一枚)

第一百零八种(楷・行計一枚)

第一百零九种(楷・行計一枚)

第一百零十种(楷・行計一枚)

競書出品規定

10月
20日

●研究部（審査会員は出品不可）

●出品資格 高校生以上

ペン字	かな条幅	漢字条幅		か な		漢 字		部門
10 一 級 範	10 一 級 範	秀級 以下	初段 以上	秀級 以下	初段 以上	秀級 以下	初段 以上	段級位
サイズ はがき	も可 半紙切	半切	半切	も可 (料紙半 紙)	たて紙 (半紙)	も可 (料紙半 紙)	半紙	半紙 用紙
書 体 自 由	創 作	創 (書体 自由)	創 (書体 自由)	臨 写真 掲載 部	書	創 作	創作 (書体 自由)	創 作 書体・内容

●前衛書部 現代詩文書部 審査会員は
半紙縦使用に限る、一人一占
(両部門に出品できる)

昭和五十九年一月二十七日第三種郵便物認可
平成十九年八月二十五日印 刷 癸 行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第五五七号

特別研究作品									
		(審査会員を含む)		誰でも出品可		出品資格			
※ き な い	【特別研究作品】	由縦横自内、	70×70	小画仙	漢字・かな・	用紙	内容		
※ バ ー コ ード	出品券は貼付で	※各部を通じて一人一点。	(篆刻は印影に落款を入れて応募)	作品競書影	現代詩・篆刻・前衛書				
	刻字は不可			の各部門を含んだ創作					

かな研究	漢字研究	部門
審査会員 候補以下 (審査会員 は不可)	審査会員 候補以下 (審査会員 は不可)	出品資格
半 紙 (料 も可)	半 紙 たて	用紙
の臨書、歌 一首以上を 書く、全文	掲載の古 筆	掲載の古 典
箇所は不可) も可(掲載部 分以外の箇 所は不可)	箇所は不可) 部分以外の 箇所は不可)	書体・内容

* パーラコード出品券についてお願ひ
　＊作品からはがれないよう、右下
　　にしつかり貼り付けてください。
　＊月別出品券の部別を間違えないよ
　　うに貼ってください。
(※ステイックのりははがれやすい
ので、ヤマトのりをご使用ください。)
* 記入する数字は、
　級位は算用数字1、2、3…
段位は漢数字 初、二、三…
で書いてください。
* 級位の方は、出品する月の本誌
(最新号)で成績を調査確認の上、
級を記入してください。確認できな
いときは、現在級を書き「未調査」
と明記してください。

（一級上の級を書く）
四「締切後着」・「段級不明」・
「課題違反」・「落款なし」
の作品は審査対象外とし、氏
名を掲載しません。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
101-0031 東京都千代田区 東神田一丁目六一七
神田芝崎ビル三階

平成十九年八月二十五日印刷
平成十九年九月一日発行

定価 一部 六五〇円

編集兼
発行人 恩 地 春 洋

印 刷 データ処理

発行所 株式会社 リンクス

東京都千代田区東神田二一六七
神田芝崎ビル三階

電話 (03)3866-1954
(03)3866-1957

振替 〇〇一五〇四一 三五〇五八

ホームページ
<http://www.lincs.co.jp/shohei/>